

抗 GST 抗体, ウサギ血清

60-021 100 μ l

グルタチオン S-トランスフェラーゼ (GST) は融合タンパクの作成に広く用いられている。GST-タグは 220 アミノ酸 (約 26kDa) の大きさであり、種々のタンパク質の N-末端に融合させることができる。GST-融合タンパクは、大腸菌でリコンビナント・タンパクとして生成させ、目的のタンパクの精製や、検出に用いられる。GST 部はその基質であるグルタチオンに結合する。GST-融合タンパクは細胞抽出液からグルタチオン・レジンを用いたアフィニティ・クロマトグラフィにより容易に精製できる。

GST に対する抗体がウサギで作成された。

用途:

1. ウェスタンブロットティング (1/2,000 希釈)
2. 免疫沈降

その他の用途は試されていない。

抗原: リコンビナント GST (アミノ酸 No.1-212)

形状: 0.05% sodium azide 添加血清

反応特異性: GST および GST-tagged タンパク質

保存: 4°C で送付、小分けして -20°C で保存。凍結融解の繰り返しは避ける。

データリンク: NCBI Protein Data [AAA57089](http://www.ncbi.nlm.nih.gov/Protein/AAA57089)

文献:

1. Smith DB & Johnson KS (1988) "Single-step purification of polypeptides expressed in *Escherichia coli* as fusions of glutathione-S-transferase." *Gene* **67**:31-40 PMID: [3047011](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/3047011/)
2. Kaelin WG Jr *et al* (1991) "Identification of cellular proteins that can interact specifically with the T/E1A-binding region of the retinoblastoma gene product." *Cell* **64**:521-532 PMID: [1825028](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/1825028/)
3. *Molecular Cloning: A Laboratory Manual* (eds. Sambrook, J., Russell, D.W. Cold Spring Harbor Laboratory Press, Cold Spring Harbor, New York, USA, 2001) pp.15.36-15.39, pp.18.48-18.59.

図 1 この抗体を用いたウェスタンブロットティングによる GST-tagged タンパク質の検出

- : 空のベクターをトランスフェクトした 293T 細胞の lysate
- +: GST-tagged importin 遺伝子を担うプラスミドをトランスフェクトした 293T 細胞の lysate

図 2 この抗体を用いた GST-tagged タンパク質の免疫沈降とウェスタンブロットティング

- : 空のベクターをトランスフェクトした 293T 細胞の lysate
- +: GST-tagged INbox 遺伝子を担うプラスミドをトランスフェクトした 293T 細胞の lysate

図 1

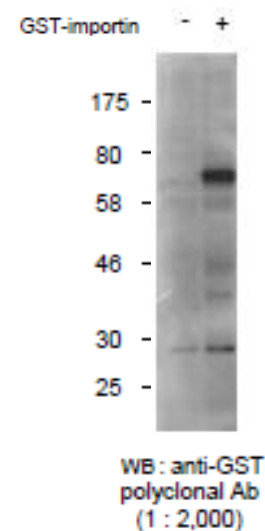


図 2

